



# さざなみ

同愛記念病院は  
地域の要請をふまえ  
地区の基幹病院として  
親切で適切な医療を提供し  
社会に貢献します。

理念

基本方針

私たちは、次により地区の基幹病院としての役割を果たしてまいります。

1. 地域に密着した救急医療及び「すみだ平日夜間救急こどもクリニック」を行います。
2. 医療機関、施設、医師会等との連携を推進し、地域の医療及び福祉サービスの充実と向上に貢献します。
3. 患者さんの権利を尊重し、インフォームドコンセントを充実させ、患者さんに寄りそった医療を行います。
4. 職員は絶えず自己研鑽を行いより高い専門性を発揮できるよう努めます。
5. 医療安全対策を強化し、信頼される医療を行います。
6. 医療を通じて社会貢献を継続するために健全な病院経営を行います。

## 耳鼻咽喉科のご紹介

社会福祉法人 同愛記念病院 耳鼻咽喉科 齊藤 孝夫

耳鼻咽喉科は、耳・鼻・口腔・咽頭・喉頭・頸部を対象とした診療科で、首から上で眼と脳を除いた部分の疾患治療を行っております。

突然発症した難聴や回転性めまい（周囲がぐるぐる回って見え、開眼できかない状態）、顔面神経麻痺（顔の筋肉が動かなくなる）などの神経性疾患、のどの痛みや飲み込みが困難となる急性扁桃炎などの急性炎症性疾患、鼻づまりや嗅覚障害を引き起こす慢性副鼻腔炎や、アレルギー性鼻炎、声がかれを伴う喉頭がんなどの腫瘍性疾患と、対象疾患は多岐にわたります。

2019年1月に、東京慈恵会医科大学附属病院から光吉亮人医師を新メンバーに迎えました。特にアレルギー性鼻炎や慢性副鼻腔炎に対する総合的治療に従事し、沢山の臨床経験を有するだけではなく鼻副鼻腔疾患治療での指導的立場で活躍しております。鼻づまりや嗅覚障害、鼻漏を主訴に来院される患者さんでは、感冒や急性副鼻腔炎（顔面の痛みや汚い鼻漏を伴う）などの一時的疾患と並び、慢性的な症状に悩んでいる方が多く受診されます。特に慢性副鼻腔炎や重症のアレルギー性鼻炎に罹患した患者さんでは、

病悩期間が長期にわたることも少なくありません。症状経過や他院での治療歴を伺い、外来での鼻内視鏡検査、血液検査（アレルギー検査）、鼻副鼻腔CT検査（副鼻腔の画像検査）により、原因精査を行っております。病態により、日常生活での環境整備、局所治療（鼻うがいなど）、お薬による内服治療、手術（日帰り手術や入院手術）を組み合わせ、長期的な効果を考えた治療法を提案させていただいております。アレルギー性鼻炎に対しては、抗ヒスタミン薬やステロイド鼻噴霧スプ



レーなどの薬物療法やレーザー手術による対症療法が一般的ですが、根治的治療を目指した舌下免疫療法（対象はスギ花粉症やハウスダストアレルギー）や重症患者さんに対しては、手術（粘膜下鼻甲骨切除術および後鼻神経切断術）を原則的には日帰り手術で行っております。

慢性副鼻腔炎では、局所治療（鼻うがい）やマクロライド療法（マクロライド系抗菌薬を主体とする内服治療）では効果が得られない患者さんも多く、内視鏡下鼻副鼻腔手術（手術は鼻の穴を通して行います）を積極的に行ってまいります。手術は全身麻酔下で行いますので、手術中の不安感や疼痛はありません。医療器具の改善に伴い鼻副鼻腔への手術侵襲も軽減されており、4泊5日の短期入院による対応とさせていただきます。

墨田区、江東区、江戸川区を中心とする病院とも連携しており、経口摂取困難などの辛い症状を伴う急性炎症性疾患の患者さんの紹介入院にも対応しております。

耳鼻咽喉科外来では医師3名（齊藤・光吉・神谷）を中心に、看護師2名、医療事務2名、臨時看護助手1名が協力して診療に当たっております。顔を覚えていただき、お困りの際は相談にいらしてください。

# 皮膚科のご紹介

皮膚科 河瀬ゆり子



2019年4月から三井浩医師の後任として赴任の河瀬と申します。過去25年間大学病院や総合病院皮膚科に勤務し、皮膚疾患の診療に関わりました。墨田区を中心とした地域医療に微力ながら貢献したく、何卒よろしくお願い申し上げます。

おかげさまで近隣のクリニックからの紹介状を持って当科を受診される方が増えています。皮膚生検や画像検査などを行って診断をつけてほしい、手術が必要な疾患でしょうか、感染症の方を（頭頸部の帯状疱疹や下肢の蜂窩織炎など）入院させて点滴治療を開始してほしい、水疱症や重症薬疹と思われるので入院をさせてほしい、などの記載が主です。それぞれの患者さんをお受けし、診察を行い、必要に応じて入院をいただいています。

外来診療時間は月曜日から土曜日まで、受付時間は午前8時30分から12時までです。平日午前中、常に3人の医師が外来を担当しています。月曜日午後はカンファレンスの時間帯にて外来診療などは行っていません。火曜日の午後はピーリングや男性型脱毛症などを対象にした自費診療治療の時間枠です。水、木、金曜日の午後に手術を行っています。

常勤医師3名は東京大学皮膚科医局員もしくは旧医局員です。非常勤医師も東京大学または東京女子医大皮膚科から派遣いただいています。より専門的な治療を要する患者さんは東大病院などへご紹介いたします。

同愛記念病院皮膚科は、注射薬（生物学的製剤）を用いて乾癬患者さんを治療することを皮膚科学会から承認されています。墨田区内の承認施設は当院および都立墨東病院です。

現在、尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬の

患者さん約60人に対して生物学的製剤を用いて治療を継続しています。外用する面積が広く、毎日の軟膏外用に手間がかかりすぎている場合に、注射薬は選択の1つとなりますのでご相談ください。

年間を通して入院数が多いのは、帯状疱疹の患者さんです。赤いぼつぼつ、水疱が生じたらなるべく早く皮膚科を受診ください。皮膚症状が生じてから72時間以内に抗ウイルス薬（内服または点滴）を開始することが肝要であると言われています。

日本では水ぼうそうワクチン接種が1歳児対象に義務化されて以来（2014年10月から）、幼児間での水ぼうそうの流行が急速に減少しました。子供や孫が水ぼうそうにかかると、一緒に生活する親や祖父母の体内ではウイルスにする抗体量が増え、ウイルスの再活性化（帯状疱疹の発症）が起こりにくくなります。周囲に水ぼうそうの子供がいなければ、そのブースター効果が生じません。よって近年、過労や加齢をきっかけに帯状疱疹の患者さんが増加傾向です。皮膚科学会では50歳以上の方に水痘ワクチン接種を推奨しています。現在は自費扱い（当院1万1000円）です。

接種後帯状疱疹が発症したとしても軽症となり、帯状疱疹後神経痛が残りにくくなるため接種をお勧めしています。



ホームページアドレス <http://www.doai.jp/>

## 〈診療科目のご案内〉

循環器内科、血液内科、糖尿病・代謝内科、腎臓内科、消化器内科、神経内科、一般内科、神経科・精神科、アレルギー・呼吸器科、小児科、外科、整形外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科

〈病床数〉403床

## ■交通案内

JR総武線 両国駅（西口）から徒歩7分  
都営地下鉄浅草線 蔵前駅から徒歩10分  
都営地下鉄大江戸線 両国駅から徒歩5分  
●都営バス（錦糸町～大塚駅）石原1丁目停留所から徒歩3分

当院では外来予約制です。

初診 / (月～金) 午前8時30分～正午 (紹介状のある方は午後3時)  
(土) 午前8時30分～午前11時

再診 / ご予約のない方: 自動再来受付機にて午前8時30分～正午  
次回のご予約は診察後にお申し込みください。

休診日 / 日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)



社会福祉法人 同愛記念病院財団  
**同愛記念病院**

〒130-8587 東京都墨田区横網2丁目1番11号  
TEL. 03-3625-6381 (代) FAX. 03-5608-3211